Q. 3・11以後の従来型避難訓練の見直しは

A. 幅広い年齢層の参加型訓練にしていきます

藤岡　緑 議員

問 3・11の東北大震災以後、大きく変化した防災・減災意識のもとで従来型防災訓練は、多くの問題点がある。避難警告の出し方や誘導についても抜本的な見直しが必要だが町の考えは。

答 総務課長

現在町内で年1回自主防災組織を中心とした共助、消防防災機関である公助との連携による防災訓練をしています。

加えて昨年度から津波対策として地域を特定して指定避難所までの避難訓練も取り入れています。避難時の経路や課題についても確認しながら行います。

災害発生時にはまず自分の身を守り、ただちに避難することが大事。避難に当たって集合するメンバーは少人数で編成し、安否確認方法や場所も事前に決めておくことが必要です。

今後とも地域の要望を踏まえて、幅広い年齢層が参加する訓練となるように研究していきます。

上高柳自主防災組織の訓練風景

問 小・中学校の防災機能強化について

避難場所でもある小・中学校の校舎等建物自体の耐震工事などは順次進んでいる。備蓄倉庫、屋外便所等の防災施設や避難経路、外階段の設置やバリアフリー化など機能強化の工事予定は。

答 国の支援事業の詳細の決定後、防災機能強化も検討します　教育長

現在子どもたちの安全確保のため耐震補強工事を最優先に、また併せて教室や水道、トイレなどの水回り電気系統の改修工事も実施しています。

国からは、学校施設の避難所としての機能強化を図るため、来年度から対象事業費の下限額の引き下げや補助率の引き上げ等を行い、使いやすい制度になるよう検討されていますが、まだ詳細が決定していません。明らかになれば屋外トイレや備蓄倉庫も含め、関係機関と協議し、避難所機能の強化を図りたいと考えます。またバリアフリー化対策事業についても補助率が3分の1から2分の1になっているので障害児対策で行ってきた工事に、この制度が使えるのか検討し活用できればと考えています。

問 小学生の屋外活動時の紫外線や蜂アレルギー対策は

地球温暖化の影響で10歳までの成長時に、大量の紫外線を浴びることや蜂アレルギーなど日頃の健康対策について問う。

答 もしもの時には、どの教員も対応できる体制を整えています　学校教育課長

町内の学校にも紫外線アレルギーの児童はいますが、自主的に帽子や長袖の体操服を着用したり、UVケアなど個々に対応しています。保護者や児童が必要であると判断すれば最も効果的な対策をとって頂いています。

蜂に限らずアレルギー対策全体で言いますと学校では、各児童、生徒の健康状態を把握し適切な対応、処置ができるようにしています。

食物アレルギーでは、アナフィラキシー症状（急激なショック状態で意識障害、呼吸不全になる症状）を起こす子どもさんもいます。そのため常時アドレナリン携帯自己注射キットを本人が所持し学校にも保管しています。緊急時には職員が注射できる体制にもなっています。

このように保護者と学校、関係機関が、もしもの時に対応できる環境を整えておくことが重要だと考えます。

その他の質問

◎不審者から子どもをどう守るか、その対策は